

世界を変えよう基金報告書

団体名：国際 NGO 団体 Habitat for Humanity 筑波大学支部 LUZ

活動内容：フィリピンでの住居建築活動(GV; Global Village Program)、文化交流

団体代表：理工学群社会工学類 2 年 稲石溪太

GV リーダー：生命環境学群生物資源学類 2 年 佐々木凧

参加メンバー：同サークルメンバー19 名

活動期間：2018 年 8 月 31 日～9 月 10 日

Habitat for Humanity について

「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」の実現を目指し世界 70 カ国以上で住まいの問題に取り組む国際 NGO 団体。1976 年アメリカで発足し住居建築支援に加え、衛生設備の支援や建築技術の普及、災害に強いコミュニティ作りなど、住まいの改善・確保、コミュニティ全体の発展を目指した支援に取り組んでいる。2001 年に日本事務局が設立され、当サークル LUZ は 2017 年 3 月に筑波大学支部として設立した。

フィリピンでの活動(GV)について

私たちが行ったのはフィリピンネグロス島のシライ市ボンボン村での住居支援と文化交流(フェアウェルパーティ)、小学校訪問などである。今回はシライ市の危険な場所(洪水や地震の危険にさらされている場所)に住んでいる人や、仕事はあっても自分の土地に住んでいない人をまとめて移住させるプロジェクトで、シライ市政府と合同で行った。

ワーク地のボンボン村にはホテルからバン 2 台で行き、50 分ほどで着いた。しばらくは市街地が続き人も車も多い通りが続くが、街を出るとまわりはサトウキビ畑に囲まれ道幅も狭くなった。ワーク地の近くは激しい段差やボロボロの家に住んでいてそこで商売をしている人が目立った。

家の構造は竹とモルタルを組み合わせたもので、コロンビアの橋の技術を用いた頑丈なものだった。ワーク地では家の概形は出来上がっており、作業は細かい部分が多かった。具体的にはモルタル作り、竹にモルタルを注入、壁のモルタルを固定する金網の強化、家の外の柵作り、壁のボルトの錆止め塗りなどがあった。モルタル作りは一番体力がいる作業で、砂と水、モルタルの素を混ぜ数人で混ぜた。それをバケツで運び、柱の役目を果たす竹に空いた穴に注入していった。金網の強化は、壁にフェンスのように貼られた金網同士を、針金

を捻って固定する作業でコツが必要だった。柵作りは家の外で、上段が短い竹、下段が長い竹を使い、親指ほどの間隔で打ち込んでいった。金槌の扱いに注意が必要だった。錆止めは、二重三重に塗り、塗った時にはみ出した塗料は後でクリーニング作業があった。この他にもモルタルの砂を砂利と分離する作業や、ゴミを捨てる作業などがあった。全ての作業は現地の大工さんに教えてもらいながら一緒に行ったが、柵作りは完成した家に住む予定のホームオーナーさんとも一緒に作った。

雨季ということもあり突然雨が降り作業が中断してしまったり、英語の通じない大工さんとのコミュニケーションの難しさだったり、思うようにはいかないこともあったが、メンバーで工夫して楽しく過ごすことが出来た。ホームオーナーさんにインタビューする時間もあり、現在の暮らしやこれからの展望などを聞くことができ、有意義だった。ワーク最終日にはフェアウェルパーティといって、ソーラン節を踊った。みんなでご飯を食べ、写真私たちの活動には「多額を払って現地に行き、拙い技術で家を建てる」より「その分の額を現地に寄付した方が効率は良い」という問いがいつも付きまとうが、ホームオーナーさんや大工さんとたくさん話している中で、私たちが来たことに感謝していたり、私たちが日本人で初めての友達だと言ってくれたり、現地に行かなければ絶対に感じることもない温かさを感じることが出来た。私たちはボランティアで、与える側だが、逆に与えられたものの方が多かったような気がする。現地の人の内情を知ることが出来たり小学校訪問では子供達と触れ合ったりもした。子供達には「あなたはお金持ちなのか」という日本ではあまり聞かれないことを純粋に聞かれて違いを感じた。世界には私たちとは比べ物にならないほど貧しい状況で暮らしている人もいるが、彼らを一概に不幸だと決めつけるのは全くの間違いで、実際にあって話してみると、彼らなりの幸せを感じている人が多く、貧困=不幸というのは先進国の勝手な考えなのだと思います。

このことに気づかせてくれた今回の活動を支援してくださった「世界を変えよう基金」の鈴木英明教授、GVをサポートしてくれたコーディネーターの方々に感謝し、今後もこの活動を続けて行きたいと思う。



家の中の様子



家の外。何戸も連なっている



完成した家。壁や屋根が塗装されている



モルタル作り



モルタルを竹に注入



針金で金網と竹壁の連結を強化



ボルトに錆止めを塗っている



竹とモルタルで補強していく(コロンビアの橋の技術)



ホームオーナーさん(ピンクの服)



ホームオーナーさん(黒い服)



現地の大工さんたち



フェアウェルパーティでソーラン節を踊る様子